

## 蒲生干潟で見られる野鳥とそれらを支える生態系⑦



Fig.1 ハヤブサ

周囲を見渡す堂々とした姿



Fig.2 イソヒヨドリ

木の実のようなものをくわえている



Fig.3 イソヒヨドリ

甲殻類のようなものを捕まえている



Fig.4 ヒバリ

地上を歩き回って採餌する



Fig.5 カワラヒワ



Fig.6 ホオジロ



Fig.7 ジョウビタキ  
オス



Fig.8 ジョウビタキ  
メス



Fig.9 ツグミ



Fig.10 ハクセキレイ

枝先に止まって周囲を見渡し餌を探したり，縄張り主張のさえざりを行っている。

水際を歩き回って餌をさがしていた。



Fig.11 オナガガモ(奥)  
ウミアイサ(手前)



Fig.12 ハシビロガモ



Fig.13 ホオジロガモ



Fig.14 キンクロハジロ



Fig.15 マガモ

陸上で餌を探しているマガモの群れ



Fig.16 コクガン

河口で休息しているコクガンの群れ

調査日 2026年2月26日 (木) 10:00～11:30  
 Fig. 1[2026年1月16日(金)], Fig. 2, 3, 5[1月22日(木)]  
 Fig. 1は潟湖北側の陸上の流木に止まるハヤブサである。ハヤブサはシギ・チドリ類やカモ類など中型の鳥類を狙う。蒲生干潟の生態系において正に頂点の存在と言える。導流堤付近でイソヒヨドリが丸い木の実らしきものを啜っている(Fig. 2)。約1時間後おそらく同じ個体と見られるイソヒヨドリがカニらしき甲殻類を捕食していた(Fig.3)。同じ種が陸上の植物性の餌から干潟の動物性の餌まで状況に応じて採餌行動を行っていることが伺える。日和山の南側では複数のヒバリが絶えず鳴きながら地上の種子など狙って採餌していた(Fig. 4)。Fig. 5～8はそれぞれ別の科であるが水辺と陸地の境界域で過ごし，枝先などに止まって餌を探したり縄張り主張をしたりすることは共通している。Fig. 9, 10は普段は陸上を歩き回っていることの多い種であるが，潟湖の汀線際を歩いて陸と水場の境界部に集まる獲物を狙っていた。Fig. 11～16はすべてカモ科である。写真の種の他にヒドリガモ，コガモ，カルガモ，ホシハジロなど計10種のカモ類が見られた。3月頃から始まる渡りの前に最後の栄養補給をしていると考えられる。蒲生干潟が渡り鳥にとって重要な中継地点であることが伺える。(伊藤勝彦)